

## 解 答 例

専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ①電気回路 (1/2)

問 1.

- (1) 電流  $i(t) = 5\sqrt{2} \sin\left(100t + \frac{\pi}{3}\right)$  [A] を極座標表示 (フェーザ表示) で表すと

$$\dot{i} = 5\angle\frac{\pi}{3} \text{ [A]}.$$

負荷インピーダンスを極座標表示 (フェーザ表示) で表すと

$$\dot{Z} = \frac{\dot{V}}{\dot{i}} = \frac{10}{5}\angle\left(0 - \frac{\pi}{3}\right) = 2\angle\left(-\frac{\pi}{3}\right) \text{ [\Omega]}.$$

- (2) 負荷インピーダンスを複素数表示で表すと

$$\dot{Z} = 2\cos\left(-\frac{\pi}{3}\right) + j2\sin\left(-\frac{\pi}{3}\right) = 1 - j\sqrt{3} \text{ [\Omega]}.$$

- (3) 電流  $i(t) = 5\sqrt{2} \sin\left(100t + \frac{\pi}{3}\right)$  [A] より, 電流の角周波数は  $\omega = 100$  [rad/s].  $\dot{Z} = 1 - j\sqrt{3}$  [\Omega] よりリアクタンスは負であるから素子はコンデンサ (もしくはキャパシタ) と定まる. コンデンサの静電容量を  $C$  とするとリアクタンスは

$$-\frac{1}{\omega C} = -\sqrt{3}$$

と表される. よって

$$C = \frac{1}{\omega\sqrt{3}} = \frac{1}{100\sqrt{3}} = \frac{1}{\sqrt{3}} \times 10^{-2} \text{ [F]}.$$

平成30年度(10月期)及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験	
解 答 例	
専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ①電気回路 (2/2)

問 2.

- (1) キャパシタに蓄えられた電荷は以下の通り.

$$q(t) = Cv_0 - \int_0^t i(\tau) d\tau.$$

- (2) キャパシタの両端間電圧は以下の通り.

$$v(t) = v_0 - \frac{1}{C} \int_0^t i(\tau) d\tau.$$

コイルの電圧降下と抵抗の電圧降下の和は以下の通り.

$$L \frac{di(t)}{dt} + Ri(t).$$

回路方程式は以下の通り.

$$v_0 - \frac{1}{C} \int_0^t i(\tau) d\tau = L \frac{di(t)}{dt} + Ri(t).$$

- (3) 二階微分方程式は以下の通り.

$$L \frac{d^2 i(t)}{dt^2} + R \frac{di(t)}{dt} + \frac{1}{C} i(t) = 0.$$

- (4) 電流の時間微分の初期値は以下の通り.

$$\left. \frac{di(t)}{dt} \right|_{t=0} = \frac{v_0}{L}.$$

- (5) 二階微分方程式の一般解  $i(t) = i_1 e^{-\frac{R}{2L}t} + i_2 t e^{-\frac{R}{2L}t}$  ( $i_1, i_2$  は定数) に初期値  $i(0) = 0$ ,  $\left. \frac{di(t)}{dt} \right|_{t=0} = \frac{v_0}{L}$  を代入す

ると, 以下のように  $i(t)$  が得られる.

$$i(t) = \frac{v_0}{L} t e^{-\frac{R}{2L}t}.$$

- (6)  $i(t)$  は,  $0 \leq t < \infty$  の範囲において,  $\frac{di(t)}{dt} = 0$  となる  $t = \frac{2L}{R}$  のときに最大値を取る. よって,

$$t_{\max} = \frac{2L}{R}, \quad i(t_{\max}) = \frac{2v_0}{Re}.$$

ただし  $e$  は自然対数の底を表す.

平成30年度(10月期)及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解 答 例	
専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ②電気磁気学 (1/3)

問 1 .

- (1) ガウスの法則は,

$$\oiint \mathbf{D} \cdot \mathbf{n} dS = Q$$

であるため,  $4\pi r^2 D(r) = Q$  となり,

$$\text{電束密度: } D(r) = \frac{Q}{4\pi r^2}, \quad \text{電界分布: } E(r) = \frac{Q}{4\pi\epsilon r^2}$$

が得られ,

$$\text{電位分布 } \phi(r) = \int_{\infty}^r \frac{Q}{4\pi\epsilon r^2} dr = \frac{Q}{4\pi\epsilon r} \quad \text{が得られる.}$$

- (2) 静電容量は,

$$C = \frac{Q}{\phi(a) - \phi(\infty)} = 4\pi\epsilon a.$$

- (3) ガウスの法則より

$$\oiint \mathbf{D} \cdot \mathbf{n} dS = Q,$$

$$2\pi r^2 D_1(r) + 2\pi r^2 D_2(r) = Q,$$

$$2\pi r^2 \epsilon_1 \frac{k}{r^2} + 2\pi r^2 \epsilon_2 \frac{k}{r^2} = Q \quad \text{となり,}$$

$$k = \frac{Q}{2\pi(\epsilon_1 + \epsilon_2)}.$$

- (4) 電荷密度  $\sigma$  と電界  $E$  の関係より

$$\sigma_1 = \epsilon_1 E(a), \quad \sigma_2 = \epsilon_2 E(a),$$

$$Q_1 = 2\pi a^2 \sigma_1 = 2\pi a^2 \epsilon_1 \frac{Q}{2\pi(\epsilon_1 + \epsilon_2)a^2} = \frac{\epsilon_1}{\epsilon_1 + \epsilon_2} Q, \quad Q_2 = \frac{\epsilon_2}{\epsilon_1 + \epsilon_2} Q.$$

- (5)  $r=a$  での電位を求めると,

$$\phi(a) = \frac{k}{a} = \frac{Q}{2\pi(\epsilon_1 + \epsilon_2)a} \quad \text{なので, 静電容量は}$$

$$C = \frac{Q}{\phi(a) - \phi(\infty)} = 2\pi(\epsilon_1 + \epsilon_2)a.$$

平成30年度(10月期)及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解 答 例	
専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ②電気磁気学 (2/3)

問 2

- (1) アンペアの法則より, 中心軸から距離  $r$  の位置では, 磁界ベクトルは距離によらず円柱座標の  $\varphi$  方向 (上向きの電流に対し右ねじの周回方向) を向く. 距離  $r$  での磁界の大きさを  $H(r)$ , 磁界ベクトル  $\mathbf{H}(r)$  をとすると,

$$0 \leq r < a : 2\pi r H(r) = \frac{r^2}{a^2} I \text{ より, } H(r) = \frac{rI}{2\pi a^2}, \quad \therefore \mathbf{H}(r) = \frac{rI}{2\pi a^2} \mathbf{i}_\varphi$$

$$a \leq r < b : 2\pi r H(r) = I \text{ より, } H(r) = \frac{I}{2\pi r}, \quad \therefore \mathbf{H}(r) = \frac{I}{2\pi r} \mathbf{i}_\varphi$$

$$b \leq r < c : 2\pi r H(r) = I - \frac{r^2 - b^2}{c^2 - b^2} I = \frac{c^2 - r^2}{c^2 - b^2} I \text{ より, } H(r) = \frac{I}{2\pi r} \frac{c^2 - r^2}{c^2 - b^2}, \quad \therefore \mathbf{H}(r) = \frac{I}{2\pi r} \frac{c^2 - r^2}{c^2 - b^2} \mathbf{i}_\varphi$$

$$c \leq r : 2\pi r H(r) = 0 \text{ より, } H(r) = 0. \quad \therefore \mathbf{H}(r) = \mathbf{0}$$

ただし  $\mathbf{i}_\varphi$  は  $\varphi$  方向の単位ベクトルである.

- (2) 内部円柱導体 ( $0 \leq r < a$ ) に蓄えられる磁界のエネルギー  $W_i$  は, 単位長さあたり

$$W_i = \int_0^a \left( \frac{1}{2} \mu_1 H^2 \right) 2\pi r dr = \frac{1}{2} \mu_1 \int_0^a \left( \frac{rI}{2\pi a^2} \right)^2 2\pi r dr = \frac{\mu_1 I^2}{16\pi}.$$

- (3) 内部円柱導体の, 単位長さあたりの自己インダクタンス  $L_i$  は

$$W_i = \frac{1}{2} L_i I^2 \text{ より, } L_i = \frac{2W_i}{I^2} = \frac{2}{I^2} \frac{\mu_1 I^2}{16\pi} = \frac{\mu_1}{8\pi}.$$

- (4) 内部円柱導体と外部円筒導体の間の空間 ( $a \leq r < b$ ) で電流  $I$  と鎖交する磁束  $\Phi_0$  は, 単位長さあたり

$$\Phi_0 = \int_a^b \mu_0 H dr = \int_a^b \mu_0 \frac{I}{2\pi r} dr = \frac{\mu_0 I}{2\pi} \log \frac{b}{a}.$$

この空間の, 単位長さあたりの自己インダクタンス  $L_0$  は

$$\Phi_0 = L_0 I \text{ より, } L_0 = \frac{\mu_0}{2\pi} \log \frac{b}{a}.$$

平成30年度(10月期)及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解 答 例	
専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ②電気磁気学 (3/3)

(5) 外部円筒導体内 ( $b \leq r < c$ ) で中心軸から距離  $r$  の位置での磁界の大きさ  $H(r)$  は(1)より

$$H(r) = \frac{I}{2\pi r} \frac{c^2 - r^2}{c^2 - b^2}.$$

この磁界が, その内部に取り囲む電流と鎖交する.

内部に取り囲む電流は  $I - \frac{r^2 - b^2}{c^2 - b^2} I = \frac{c^2 - r^2}{c^2 - b^2} I$  であることから, 磁界は, 全体電流  $I$  と  $N = \frac{c^2 - r^2}{c^2 - b^2}$  回鎖交す

と考えられる. 外部円筒導体内 ( $b \leq r \leq c$ ) で, 中心軸から距離  $r$  の位置に微小幅  $dr$  の帯状領域 (単位長さ) を考えると, その帯状領域を貫く磁束  $d\Phi$  は

$$d\Phi = \mu_2 H dr$$

となり, 外部円筒導体全体での鎖交磁束  $\Phi_e$  は

$$\begin{aligned} \Phi_e &= \int_b^c N d\Phi = \int_b^c \frac{\mu_2 I}{2\pi r} \left( \frac{c^2 - r^2}{c^2 - b^2} \right)^2 dr = \frac{\mu_2 I}{2\pi (c^2 - b^2)^2} \int_b^c \left( r^3 - 2c^2 r + \frac{c^4}{r} \right) dr \\ &= \frac{\mu_2 I}{2\pi (c^2 - b^2)} \left[ \frac{-3c^2 + b^2}{4} + \frac{c^4}{c^2 - b^2} \log \frac{c}{b} \right] \end{aligned}$$

となる. 外部円筒導体により生じる単位長さあたりの自己インダクタンス  $L_e$  は

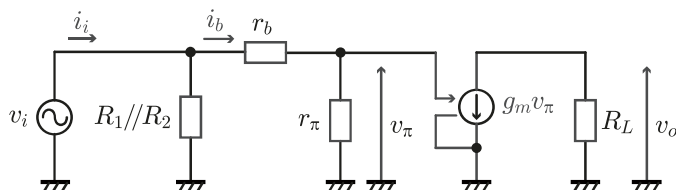
$$\Phi_e = L_e I \text{ より, } L_e = \frac{\mu_2}{2\pi (c^2 - b^2)} \left[ \frac{-3c^2 + b^2}{4} + \frac{c^4}{c^2 - b^2} \log \frac{c}{b} \right].$$

平成30年度（10月期）及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験  
解 答 例

専 攻 名	電子情報科学専攻
試験科目名	専門科目 ③電子回路（1／3）

問 1.

(1) 等価回路は下図のとおりである.



(2) 回路網方程式は次式となる.

$$v_i = (r_b + r_\pi) i_b$$

$$v_\pi = r_\pi i_b$$

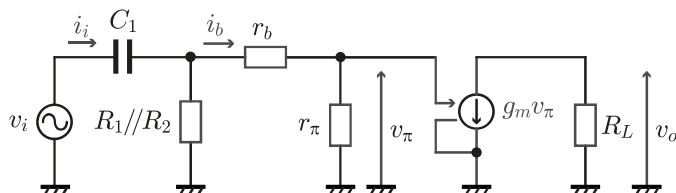
$$v_o = -g_m v_\pi R_L$$

上式を解いて,

$$G_0 = -\frac{g_m r_\pi R_L}{r_b + r_\pi}$$

と求められる.

(3) 等価回路は下図のとおりである.



(4) 回路網方程式は次式となる.

$$v_i = \frac{i_i}{j\omega C_1} + (R_1//R_2)(i_i - i_b)$$

$$(R_1//R_2)(i_i - i_b) = (r_b + r_\pi) i_b$$

$$v_\pi = r_\pi i_b$$

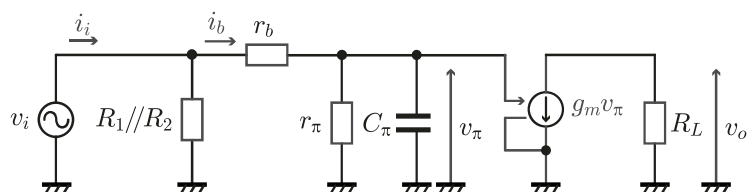
$$v_o = -g_m v_\pi R_L$$

上式を解いて,

$$G_L(\omega) = -\frac{j\omega C_1 (R_1//R_2) g_m r_\pi R_L}{(R_1//R_2 + r_b + r_\pi) + j\omega C_1 (R_1//R_2)(r_b + r_\pi)}$$

と求められる.

(5) 等価回路は下図のとおりである.



平成30年度（10月期）及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験  
解 答 例

専 攻 名	電子情報科学専攻
試験科目名	専門科目 ③電子回路（2／3）

(6) 回路網方程式は次式となる．

$$v_i = \left( r_b + \frac{r_\pi}{1 + j\omega C_\pi r_\pi} \right) i_b$$

$$v_\pi = \frac{r_\pi}{1 + j\omega C_\pi r_\pi} i_b$$

$$v_o = -g_m v_\pi R_L$$

上式を解いて，

$$G_H(\omega) = -\frac{g_m r_\pi R_L}{r_b + r_\pi + j\omega C_\pi r_\pi r_b} \quad \text{と求められる．}$$

(7)  $\omega_{cl}$  は  $|G_L(\omega)|$  から求める． $|G_L(\omega)|$  は  $\omega \rightarrow \infty$  のときに最大値  $|G_0|$  となる．したがって，

$$|G_L(\omega_{cl})| = \frac{1}{\sqrt{2}} |G_0|$$

より，

$$\omega_{cl} = \frac{R_1 // R_2 + r_b + r_\pi}{C_1 (R_1 // R_2) (r_b + r_\pi)} \quad \text{と求められる．}$$

また， $\omega_{ch}$  は  $|G_H(\omega)|$  から求める． $|G_H(\omega)|$  は  $\omega = 0$  のときに最大値  $|G_0|$  となる．したがって，

$$|G_H(\omega_{ch})| = \frac{1}{\sqrt{2}} |G_0|$$

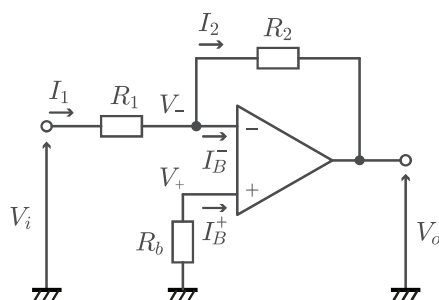
より，

$$\omega_{cl} = \frac{r_b + r_\pi}{C_\pi r_\pi r_b} \quad \text{と求められる．}$$

平成30年度（10月期）及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験  
解 答 例

専 攻 名	電子情報科学専攻
試験科目名	専門科目 ③電子回路（3／3）

問2. 下図に示すように、 $R_1$  を流れる電流を  $I_1$ ,  $R_2$  を流れる電流を  $I_2$  とする．また，オペアンプの + 入力端子と - 入力端子の電圧をそれぞれ  $V_+$  および  $V_-$  とする．



- (1)  $I_B^+ = I_B^- = 0$  およびイマジナリーショートより,  $V_+ = V_- = 0$  である．このとき

$$I_1 = \frac{V_i - V_-}{R_1} = \frac{V_i}{R_1}$$

$$I_2 = \frac{V_- - V_o}{R_2} = -\frac{V_o}{R_2}$$

であり,  $I_1 = I_2$  となることから,

$$V_o = -\frac{R_2}{R_1} V_i \quad \text{となる.}$$

- (2) イマジナリーショートより,  $V_+ = V_- = -R_b I_B^+$  である．このとき

$$I_1 = \frac{V_i - V_-}{R_1} = \frac{V_i + R_b I_B^+}{R_1}$$

$$I_2 = \frac{V_- - V_o}{R_2} = -\frac{R_b I_B^+ + V_o}{R_2}$$

$$I_1 = I_2 + I_B^-$$

であるから, 上式を解いて,

$$V_o = -\frac{R_2}{R_1} V_i + R_2 I_B^- - \left(1 + \frac{R_2}{R_1}\right) R_b I_B^+ \quad \text{となる.}$$

- (3)  $R_b = R_1 // R_2 = \frac{R_1 R_2}{R_1 + R_2}$  を (2) の解に代入して,

$$V_o = -\frac{R_2}{R_1} V_i + R_2 (I_B^- - I_B^+) \quad \text{となる.}$$



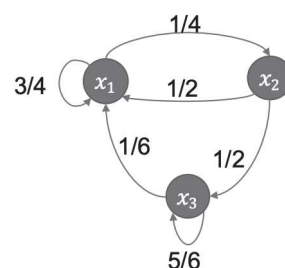
## 解 答 例

専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ④情報基礎 (1/2)

問 1.

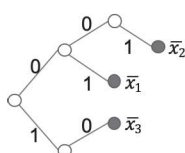
- (1)
- $\pi = (4/8, 1/8, 3/8)$

シャノン線図は右の通り.



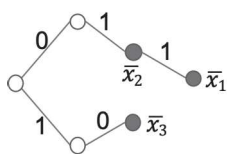
- (2)

- (a) 平均符号長は、
- $\frac{4}{8} \times 2 + \frac{1}{8} \times 3 + \frac{3}{8} \times 2 = \frac{17}{8} = 2.125$
- .



符号木より、各記号が葉に位置するため、瞬時符号である.

- (b) 平均符号長は、
- $\frac{4}{8} \times 3 + \frac{1}{8} \times 2 + \frac{3}{8} \times 2 = \frac{20}{8} = 2.5$
- .



符号木より、葉に位置しない記号があるため、瞬時符号ではない.

- (3)
- $\bar{S}^2 = \left\{ \frac{16}{64}, \frac{4}{64}, \frac{12}{64}, \frac{4}{64}, \frac{1}{64}, \frac{3}{64}, \frac{12}{64}, \frac{3}{64}, \frac{9}{64} \right\}$

よってエントロピーは、 $-\sum p_i \log p_i$ より、

$$H(\bar{S}^2) = \frac{256 - 48 \log_2 3}{64} = \frac{16 - 3 \log_2 3}{4} = 4 - \frac{3}{4} \log_2 3$$

となる.

- (4) ハフマン符号は、

$$\bar{x}_1 \bar{x}_1 = 01, \bar{x}_1 \bar{x}_2 = 1000, \bar{x}_1 \bar{x}_3 = 11, \bar{x}_2 \bar{x}_1 = 1001, \bar{x}_2 \bar{x}_2 = 10101,$$

$$\bar{x}_2 \bar{x}_3 = 1011, \bar{x}_3 \bar{x}_1 = 000, \bar{x}_3 \bar{x}_2 = 10100, \bar{x}_3 \bar{x}_3 = 001$$

となる。(導出過程は解答例では省略.)

求めた符号より平均符号長は $\frac{183}{64}$ となり、効率は、

$$\frac{H(\bar{S}^2)}{183/64} = \frac{1024 - 192 \log_2 3}{732} = \frac{256 - 48 \log_2 3}{183}$$

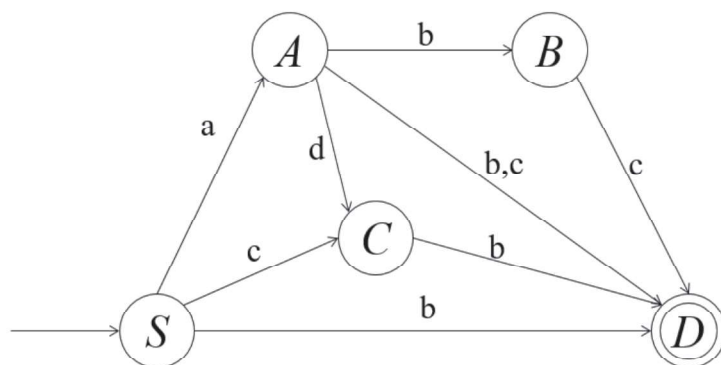
となる.

解 答 例

専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ④情報基礎 (2/2)

問 2.

(1)



(2)  $V = \{S, A, B, C, D\}$ ,  $\Sigma = \{a, b, c, d\}$ ,  $R = \{S \rightarrow aA | bD | cC, A \rightarrow bB | bD | cD | dC, B \rightarrow cD, C \rightarrow bD, D \rightarrow \varepsilon\}$

(3)  $S \Rightarrow aA \Rightarrow abB \Rightarrow abcD \Rightarrow abc$ ,  $S \Rightarrow aA \Rightarrow acD \Rightarrow ac$ ,  $S \Rightarrow aA \Rightarrow adC \Rightarrow adbD \Rightarrow adb$ ,  $S \Rightarrow aA \Rightarrow abD \Rightarrow ab$ ,  $S \Rightarrow bD \Rightarrow b$ ,  $S \Rightarrow cC \Rightarrow cbD \Rightarrow cb$

(4)  $V = \{S, A, B, C, T_a, T_b, T_c, T_d\}$ ,  $\Sigma = \{a, b, c, d\}$ ,  $R = \{S \rightarrow T_aA | b | T_cC, A \rightarrow T_bB | c | T_dC | b, B \rightarrow c, C \rightarrow b, T_a \rightarrow a, T_b \rightarrow b, T_c \rightarrow c, T_d \rightarrow d\}$

平成30年度(10月期)及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解 答 例	
専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ⑤計算機ソフトウェア (1/2)

問 1.

- (1) 出力結果は

1.81↓

となる.

統計量の名称は, 分散.

- (2) `return b/(double)n - a * a;`

解答において演算誤差の考慮の有無は問わない.

- (3) (ア) `x` (イ) `n-1` (ウ) `x[n-1]`

解答において演算誤差の考慮の有無は問わない.

- (4) 再帰呼出し

- (5) 
$$a_n = \frac{1}{n+1}(na_{n-1} + x_n)$$

- (6) オンラインアルゴリズム または ストリームアルゴリズム

平成30年度(10月期)及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解 答 例	
専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ⑤計算機ソフトウェア (2/2)

問 2.

(1)

(a)  $O(\log n)$

(b)

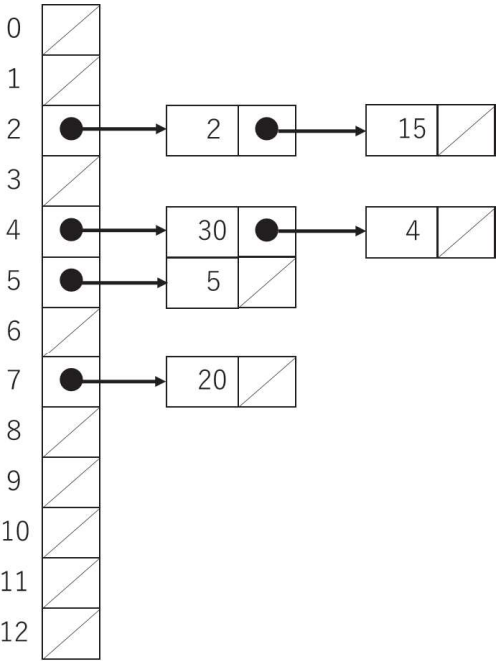
[1]  $O(n^2)$

[2]  $O(n \log n)$

[3]  $O(n)$

(2)

(a)



(b) 平均時間計算量  $O(1)$ , 最悪時間計算量  $O(n)$

(c)

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		15	2	4	5		20	30				

平成30年度(10月期)及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解 答 例	
専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ⑥計算機ハードウェア (1/2)

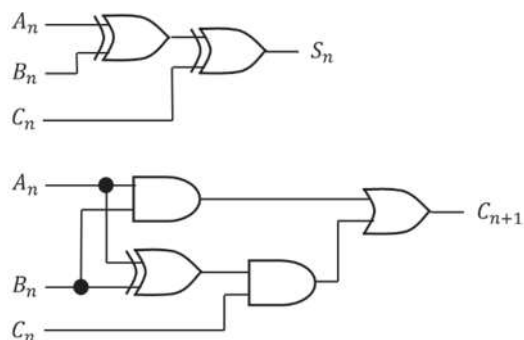
問 1.

- (1) ・まず、命令レジスタに取り込んだ命令の下位 20 ビット A を L バスへ転送する。  
同時に、命令の中のレジスタ指定 3 ビットで指定されたレジスタ R1 の内容を R バスへ転送する。  
・その後、演算ユニットで加算して、演算結果  $A+(R1)$  が O バスに出力される。
- (2) ・まず、(1) の O バスの出力である演算結果  $A+(R1)$  をメモリアドレスレジスタに取り込む。  
・次に、メモリアドレスレジスタの番地をアドレスバスに転送して、制御信号線をリードにし、タイミング制御信号をアサートする。  
・その後、記憶装置のデータがデータバスに読みだされるので、リードデータレジスタに取り込む。  
・次に、リードデータレジスタの内容を L バスに転送する。  
同時に、R0 の内容を R バスに転送する。  
・L バスのデータと R バスのデータが演算ユニットで減算されて、O バスに出力されるので、R0 に取り込む。
- (3) ・ $Z=0$  のときは、何もしない。  
・ $Z=1$  のときは、(1) の方法で番地  $A+(R1)$  を計算して、プログラムカウンタに取り込む。
- (4) ・ $Z=1$  または  $N=1$  のときは、何もしない。  
・ $Z=0 \wedge N=0$  のときは、(1) の方法で番地  $A+(R1)$  を計算して、プログラムカウンタに取り込む。

平成30年度(10月期)及び平成31年度 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程入学試験 解 答 例	
専 攻 名	電子情報科学専攻 (一般選抜)
試験科目名	専門科目 ⑥計算機ハードウェア (2/2)

問 2.

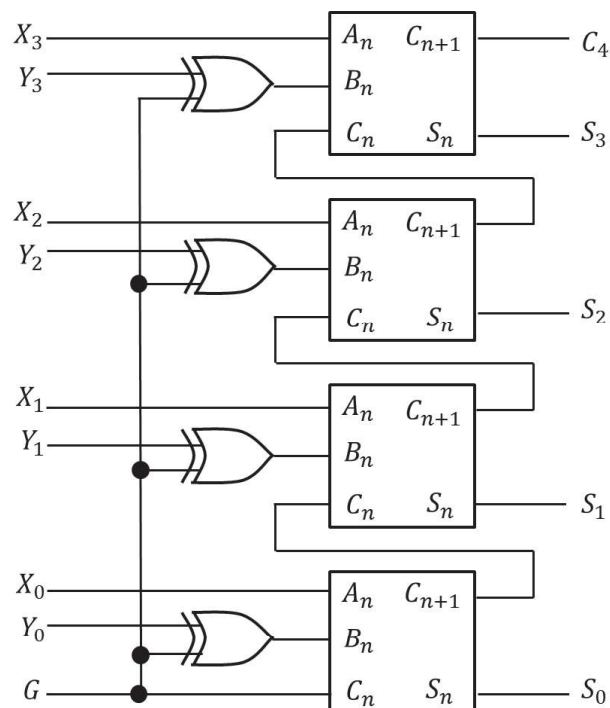
- (1)  $S_n$  と  $C_{n+1}$  の論理回路図



- (2)  $C_3$  の論理式

$$C_3 = X_2 Y_2 + (X_2 \oplus Y_2)(X_1 Y_1 + (X_1 \oplus Y_1) Y_0 X_0)$$

- (3) 加減算回路の論理回路図



- (4) オーバーフロー検出器  $f$  の論理式

$$f = X_3 Y_3 \bar{S}_3 + \bar{X}_3 \bar{Y}_3 S_3$$